

●暑さが和らいだ公園で、存分に散策を楽しんでください。

感染症対策をしっかりと行い、秋の公園を思う存分楽しんでくださいね！

○やせた土地でも育つハギ

●ハギは、やせた土地でも育つ植物です。ハギの仲間の中には砂地の緑化や斜面の土留めなどに使われるケースもあるようです。



①ハギ

マメ科の植物と根粒菌

■ハギに代表されるマメ科の植物は、その根に根粒菌を寄生させています。この根粒菌とは、ハギなどの宿主に寄生し、根に根粒というコブ（根粒）を作り出します。そのコブは、大気中の窒素を吸収し、宿主となる植物の栄養に変換し、宿主の成長を助けます。こういった共生関係がハギのやせた土地の育成を可能にしているのです。

根粒菌とSDGs

■農業が飛躍的に進歩した要因の一つが化学肥料です。化学肥料の特徴の一つに、窒素を地中に固定する性質をしていますが、その一方で、製造過程で大量の二酸化炭素と一酸化炭素を空气中に排出し、地球温暖化の要因の一つになっています。また、使用された化学肥料によって河川が富栄養化してしまうケースもあります。しかし、根粒菌はもともと根に窒素を固定する能力が備わっているため、温室効果ガス削減や河川の生態系保全の助けになるかもしれませんね。



○日本では重宝され、海外ではやっかいものである「ススキ」

●万葉集にも詠まれるなど、古来より日本人に親しまれてきた秋の風物詩であるススキ。昔はススキのことを茅（カヤ）とよび、建物の屋根（茅葺屋根）や家畜のえさとして利用していました。集落のそばにはススキを育てていた茅場があり、定期的に刈り取る作業が行われていました。また、ススキは草原の遷移では最終段階にあたる植物であり、放っておくと雑木林になってしまいます。そのため、箱根の仙石原や大分県の久住高原などでは遷移が進まないよう定期的に野焼きを行い、ススキの草原を管理しています。しかし、そういったススキを利用する文化のない北米では、ススキが侵略的外来種として猛威を振るっているそうです。植物というのは、その土地と人々との関わり方によって善にも悪にもなってしまうのです。難しい問題ですね。

○ヒガンバナの変わった生態

●毎年この時期になると、園内のあちこちで彼岸花が咲き始めます。秋になると土から花をつける花茎がまず伸びてきて、花を咲かせます。花が終わると次に葉が生え始めます。その状態で冬を越し、春になると葉が枯れ、夏は休眠し、秋に再び花を咲かせます。似たような生態を持つ植物に、コルチカム（イヌサフラン）があります。



②ヒガンバナ



③コルチカム



④ススキの小径



⑤御所沼のススキ

●秋の散策で気分をリフレッシュ！夏の疲れを吹き飛ばし、心も体も健康になりましょう。

【発行】(一財)古河市地域振興公社 古河公方公園(古河総合公園) 〒306-0041 茨城県古河市鴻巣399-1 電話0280-47-1129

○てくてく情報は公式ホームページからもダウンロードできます。

古河公方公園

検索